

Qualifying &  
Life Member



MDRT®

オフィス **ASADA**

代表 麻田 春江

茨城県取手市井野台 1-7-28 〒302-0015

Tel: 0297-72-2401 Fax: 0297-72-6217

e-mail: officeasada\_h@ybb.ne.jp

携 帯: 090-8720-8591

平成 21 年 4 月 吉日

オフィスASADA通信のご案内

人と人との絆から生まれた心温まるニュースをお届けします。

(4月4日(土) PM9:00~11:00 日本テレビ放映予定)

### 1人の機長の思いが、子どもたちの夢と希望を叶えた物語



昭和 33 年 4 月 宮城県のとある学校に、一羽のハトが  
迷い込んできました。子どもたちがハトの足輪を調べて  
みると飼い主は東京に住んでいることが分かった。

しかし、子どもたちだけでは東京まで連れて行くこと  
ができない…。

「そうだ、飛行機に乗せて運んでもらおうよ！」

生徒のひとりがこんな提案をしたのです。確かに、学校と仙台空  
港は目と鼻の先であるが、こんな申し出を航空会社が引き受けてく  
れるのだろうか？

なんと、この申し出を快く引き受けてくれたパイロットがいた。

全日空の機長、麻田 正さん(当時 37 歳)

「ハト 1 羽くらいなら持っていきますよ」その日のうちにハトは麻田機長が操縦する飛行機で  
東京へ運ばれ、無事に飼い主の元へ戻された。

数日後、無事にハトを届けたことを子どもたちに報告したいと思った麻田機長は学校を訪れた。  
そこで、言葉を失う光景を目の当たりにするのである。麻田機長が見たものとは、ベットの上で、  
教科書とノートを広げて勉強する子どもたちの姿であった。

子どもたちがいた学校とは、「玉浦小中学校矢野目分校、(玉浦ベットスクール)。難病を抱え  
た子どもたちが集まる学校でした。病名は「結核性脊椎カリエス、脊椎に結核菌が侵入し、背中  
から腰にかけての骨が変形してしまう恐ろしい病気。そこにいる子どもたちの中には、歩くこと  
はおろか、自分で起き上がることも出来なくなっていた生徒もいたのです…。



この日から麻田機長はこの学校の子どもたちに何か出来ることはないだろうかと思うようになり、ベツトスクールの子ども達に図書やおもちゃ、又いろいろなお土産を届けるようになりました。北海道のスズランや八丈島のフェニックスを送ったこともありました。

この交流は、35年にベツトスクールが玉浦から西多賀に移転した後も続き 以後5年間にわたり、病氣療養しながら勉強する子どもたちを励まし続けました。

ある日、子どもの1人からこんな言葉を耳にしました。「ハトのように思いっきり空を飛んで見たいな」この言葉を聞いた 麻田機長は、

「ここの子どもたちを大空に連れて行ってあげたい！」そんなことを本気で考えるようになりました。



### 「いつかみんなに大空からすごい景色をみせてあげるよ」

現実はそのように甘くはありません。個人の飛行機ならともかく、全日空という大組織の中で、子どもを招待飛行することは容易ではありません。子どもたちとの約束を果たすために、会社(全日空)と粘り強く何度も何度も交渉を重ね、ついに 麻田機長の思いが奇跡を起こしたのです。

### 昭和 38 年に約束どおり遊覧飛行を実現させました。

麻田機長は遊覧飛行の4年後にがんの為急逝しました。しかし、子どもたちに対する優しい気持ちと、約束を果たすために粘り強く交渉を重ねた強い責任感の持ち主として、麻田機長の姿は、それ以後もずっと子どもたちの心に生き続けました。

平成 18 年 4 月に「麻田メモリアルフライト」として 43 年前の遊覧飛行を再現しようと ANA の中にボランティアグループが作られ、会社も全面的に協力することになった。

世界各地に散らばる同社の社員は「大先輩である麻田機長の献身的な姿勢を自ら引き継いでいきたい」という高い志によって発案され、多くの人たちの努力によって実を結んだ企画でした。

「子どもたちに飛行機と空の旅の魅力を存分に味わってほしい」という情熱に燃えて、献身的な努力を重ねました。その努力は、予想をはるかに超えて、言葉では語りつくせぬほど素晴らしいものになりました。

病氣や障害のために飛行機に乗る機会がなかった子どもにとって、初めて飛行機に乗る体験をした事は、一生忘れることが出来ない思い出となりました。

